

令和6年度小児の高次脳機能障害に関する研修会概要報告

1 目的

小児の高次脳機能障害についての認知度は高いとはいわず、高次脳機能障害の子供やその家族が適切な支援や情報提供を受けるためには、小児期以降の相談、教育等の関係機関職員への普及啓発や理解促進が重要である。

本研修会では、講演を通じて、小児期の相談、教育等に携わる関係者が高次脳機能障害の基礎知識、対応方法、家族支援等についての理解を深めることにより、高次脳機能障害や類似した対応が有効である発達障害のある児童（就学前を含む）・生徒・家族への支援の充実を図ることを目的とする。

※ 障害者施策推進部精神保健医療課と共に開催

2 日 時 令和6年8月14日（水）午前9時から9月1日（日）午後10時まで

3 開催方法 WEB開催

4 定 員 700名（教育関係者450名、医療・福祉関係者250名）

5 申 込 教育関係者と医療・福祉関係者合わせて419名

（教育関係者257名、医療・福祉関係者162名）

※申し込み時の教育関係者のアンケートより

高次脳機能障害という名称は知っているが、どのような障害かはよく知らない：69%、高次脳機能障害の方に関することがあり知っている：25%、知らない：6%

6 内 容 <テーマ>「高次脳機能障害のある子供の理解

～高次脳機能障害がある私から伝えたいこと、私にとっての学生時代とは～」

（1）講演「小児期の高次脳機能障害の理解と対応」

京都文教大学 臨床心理学部 臨床心理学科教授 中島 恵子 氏

・小児期の高次脳機能障害、発達障害との違い、家族、きょうだい支援等について

（2）トークセッション「高次脳機能障害がある私から伝えたいこと、私にとっての学生時代とは」

高次脳機能障害の子どもを持つ家族の会ハイリハジュニアプラス 植木 啓太 氏

高次脳機能障害の子どもを持つ家族の会ハイリハキッズ代表 中村 千穂 氏

学校関係者 林田 麻理子氏

・（本人）復学後の勉強についていくのが大変だった

・（本人）同級生からからかわれたり、心無い言葉を言われた。先生に相談しようと思っても、先生の前に行くと何を話そうとしていたのか分からなくなってしまった（忘れて）いた

・（本人）大学進学、就労では、支援が無かったり、障害があるというだけで断られたりした

・（本人）特別扱いはしてほしくないが、サポートが無いと困る

・（家族）復学後、高次脳機能障害によっていろいろな問題、課題が出てくる、先生から助言を求められても、家族側も混乱しているので聞かれても困る。

・（学校関係者）学校にはいろいろな子供達がいる。先生方もとても大変な状況

・（学校関係者・家族）家族と学校の間に高次脳機能障害の事をよくわかっている人に入ってもらい、課題整理と説明をしてほしい

8 アンケート結果 回答者136件（9月5日現在 締切9日）

【講演】（大いに参考になった92名、参考になった42名、普通2）

・子どもの高次脳機能障害について、具体的な支援方法を知ることができた

・発達段階との違いが知れて勉強になった

・学校教育での対応の方法や課題について勉強になった。行き渋りにならない配慮の必要性を感じた

【トークセッション】（大いに参考になった102名、参考になった31名、普通3名、）

・植木さんの「特別扱いはしてほしくないけどサポートは必要」という言葉が印象に残った

・当事者の思いを聞かせていただく中で、対象児の理解に合わせた説明を行うことの重要性が理解できた

・子どもへの伝え方、ご家族と教育ほか関係機関をつなぐ専門職が必要と感じた

・当事者の話をとても心に響く

・小児であっても、説明や確認をすることの大切さを知った